



# 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

## 会報



私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します



御茶ノ水駅前のサンタクロース

12月 御茶ノ水  
甲賀通りの紅葉

17号

2018年12月

### ★会員交流広場★ サロンドワイワイ ～Salon de YY～

NPO 法人日本福祉囲碁協会をご存知ですか？

高齢者施設にボランティア棋士を派遣したり、目の不自由な方々に対して囲碁の楽しさを伝える活動をおこなっています。今回は、佐野利明会長にインタビューに答えていただきました。

#### ①協会の活動内容は

会員は、毎月定期的に、ご高齢や障がいのため囲碁を打ちたくても打つ機会に恵まれない方々の許にお伺いして、囲碁のお相手をしており、昨年1年間の訪問先は約240カ所、お相手した人数は15000人です。毎年、10月は福祉囲碁大会6月は視覚障がい者囲碁大会を開催し、会員がボランティアで運営にあたります。

#### ②視覚障がいの方への囲碁の指導方法は

正直に言って、試行錯誤の毎日です。会員が作成した日本棋院の石倉昇著「ヒカルの囲碁入門」の音訳版CDを活用し、視覚障がい者に囲碁の基礎的な事をご理解いただいた後、会員が文字通り手探りで視覚障がい者用碁盤を用いて対局をします。

#### ③囲碁をはじめの方へのアドバイスは

囲碁は大変楽しい競技です。趣味として囲碁を学ぶのであれば、自由に楽しくありたいものです。ただ強くなるには、初めが肝心。強い人（できればプロ）の指導を受けたほうが良いでしょう。又、囲碁への関心の度合いが強いほど進歩が速いようです。対局を楽しんで下さい。



H30年度視覚障害者囲碁大会  
視覚障がいの男の子が真剣勝負  
～歳の差84歳の対決～

★NPO 法人・日本福祉囲碁協会 会長・佐野利明  
東京都渋谷区東 1-27-9 奥山ビル2階 03(3407)2945  
メールアドレス hukusiigo@rio.odn.ne.jp  
～ 自分のために 人のために ボランティア棋士募集 ～

### 特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター入会のご案内

会員数 93 (正会員 79 団体会員 5 賛助会員 9) 2018年12月1日現在

～会員になって、東京YWCAヒューマンサービスサポートセンターを支えてください。～

会員特典：NPO主催の講習会費の割引、講師派遣研修費の割引等があります。入会申し込みは事務局まで。

### 会費・寄付金等振込先

(年会費 正会員 3,000円/年 賛助会員 一口10,000円/年 団体会員 20,000円/年)

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

### 口座名義

特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター 代表理事 田島 誠一

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 蛸原まゆみ 副島礼子 大庭 幸 (イラスト) 石井須美子 (写真)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京YWCA会館216号室

TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail: [info@ywca-hssc.jp](mailto:info@ywca-hssc.jp) ホームページ: <http://ywca-hssc.jp/> 東京YWCA hssc で検索

2018年12月25日 クリスマス休暇 12月27日～2019年1月6日 冬季休暇をいただきます。

### 新事業 東京都保育士等キャリアアップ研修開講中

福祉のしゃべり場 ★ 活動報告 P3

特集 キャリアアップ研修～講師紹介②

講師 浜谷 直人氏 芦澤 清音氏 是村 由佳氏 P5

講師派遣研修 講師紹介 伊藤 卓氏 佐藤 幸江氏 P6

会員交流広場 Salon de YY『NPO 法人 日本福祉囲碁協会』の活動について P8



新規事業順調に  
育っています

## ◆◆◆新体制スタート◆◆◆

～理事長として思うこと～

田島 誠一

理事長に就任し、以前とは違い法人代表としてセンターに関わってきました。センターが積み上げてきた歴史の重みを感じると同時に福祉で働く人々の成長の機会をお手伝いする仕事の重さや奥深さもより強く感じています。福祉制度が大きく変わりつつありますが、これ以上に考えるべき問題は人々の心の問題です。やまゆり園事件の犯人やLGBTに非難を送る人達と、それに賛意を送る人々の存在に心を痛めます。

福祉で働く者は、確かな人間観・福祉観を土台に知識や技術を身につけることを基本にしなければならないと強く思います。確かな人間観とは、飛行機の胴体のようなもので、胴体がしっかりしていないところに、知識や技術という翼を大きくしたのでは、翼は落ちてしまいます。

ソーシャルワークの祖リッチモンド女史は、「社会資源を知り、また、社会の特定の小部分というよりも、むしろ生活の主要な傾向を知るときに、あなた方はその組織の形態のなかに、あなた方自身が持っている独自のものを織り込んでいくことができ」「真の社会進歩が実現していく」「告別の言葉」小松源助訳」と述べています。センターの働きが真の社会進歩につながるよう心と力を尽くしていきたいものです。

## ◆◆◆理事会報告◆◆◆

2018年11月13日(火) 17:30～19:00 東京YWCA会館 215号室にて開催

出席：理事 6名 監事 2名 欠席：理事1名

議題 1. 2018年度上半期の事業報告及び10月までの実績

- 1) 講師派遣研修
- 2) 東京都保育士等キャリアアップ研修
- 3) 会報
- 4) 福祉のしゃべり場
- 5) 10月までの実績

2. 2018年度補正予算

上記の議題について報告、意見交換後、補正予算が承認された。

## ◆◆◆2018年度上半期事業報告(2018年4月から2018年10月)◆◆◆

### 1. 講師派遣研修

収益事業である講師派遣研修は、現在契約数13件。昨年に比べ契約数、契約金額も若干の減少となっている。昨年に比べて増加したのは、保育園職員研修。新規の契約が2件。継続研修が1件であった。新規契約につながったのは、昨年某保育園で行った「コミュニケーション研修」が好評であり、成果があったことから地域の保育園園長会にて話題となり口コミで広がり、契約を結ぶことができた。

今後は、コミュニケーション研修だけでなく、園長、主任を対象としたマネージメント研修等、保育士の人材育成のための独自の研修を企画し、キャリアアップ研修などを利用しPRしていきたい。

### 2. 講座 講習会

#### 東京都保育士等キャリアアップ研修

補助金事業のキャリアアップ研修は、12回開催のところ、10月までに9回終了。受講者は延べ、455名となっている。受講者アンケートの結果では、研修内容についての回答では非常に良い、良いが90%以上であり受講者の高い評価となっている。応募定員に満たない研修があるため、今後、より広報に力を入れることや研修日程等について検討する。

### 3. 福祉啓発事業

#### 第一回「福祉のしゃべり場」開催

2018年10月6日(土) 13:30～15:00 東京YWCA会館 215号室 参加者8名 次頁参照

### 4. 広報

会報 16号：2018年7月31日800部発行 保育士等キャリアアップ研修受講者へ配布

## ケアラースかふえ みちくさ亭 訪問記

『介護をしている人(ケアラー)がほっと立ち寄れる場所を!』をコンセプトにはじめられたカフェですが、地元地域の方も気軽に立ち寄れる場所です。

おいしい食事、麻雀の会など地域の方の楽しい集まり、認知症や介護の学び、認知症当事者の会、介護家族の会など様々な集まりを、開いている場所です。医師や看護・栄養士・リハビリ・福祉用具などの専門相談日も設けています。

代表の布川佐登美さんは、ご自身の認知症になった家族の介護から、鬱病を発症した経験があり、ご実家を開放し地域の専門職やボランティアなど、趣旨に賛同される多くの方々と手をつなぎ、このカフェを運営されています。

介護が必要になる前から、ここにくることで予防にもなり、地域での見守りを続けて、要介護になっても、これまでの人間関係を大切にできることが安心につながり、大事だとお話を伺いました。



### ケアラースかふえ みちくさ亭

活動日：火・水・木 場所：千葉県柏市藤心1-29-12

地域の野菜と健康メニュー



戸外のお知らせ掲示板



## 会員お勧め 書籍の紹介

### 「認知症と共に生きる私～絶望を希望に変えた20年」

クリスティン ブライデン 著 馬籠 久美子 訳 大月書店

オーストラリア政府の仕事をしていた時、46歳で認知症の診断を受け、若年性の為進行が早く、5年で施設入所その後3年で命が終わると医師から告げられ、自分は誰になってゆくのかわからなくなる恐怖、信仰者として神様を忘れる恐怖、不安がコントロールできなくなる自分、正直な認知症を生きる自分と、共に生きる夫とともに、認知症の自分の姿を伝えることで、これから認知症になる人の役に立てるよう、どのように手伝ってほしいのかについても、当事者の立場から書かれている本です。サバイバーとして生きるクリスティンさんから、教えられることがたくさんあります。

### 「心がすっと軽くなる ポケた家族の愛し方」

医師 長尾和宏 監修 集い場さくらちゃん代表 丸尾多重子著

～家族の介護に頑張っているあなたへ～

介護はそれぞれの人、家族、繋がりの中で起きることです。この本は漫画なので読みやすいです。母親・夫・義父・妻・父・遠距離・同居・施設 様々な立場の介護をわかりやすく漫画で表現されています。

目の前のことだけではわからない人間の歴史を含んだ関係や物語が介護にはあることを改めて感じます。

介護家族に向けた「まるちゃん流イライラしない技術」も載っています。

また、困ったときに頼れる場所、わかりやすいお勧め本も紹介されています。

## 第一回「福祉のしゃべり場」開催

参加者 8名

Jr 蛸原 HS 副島 CW 木村 CW 鍋田 CW 西ヶ谷(敬称略)

現在の所属：知的障害生活介護（1） 重心身障害生活介護（1）  
 重心身障害生活施設（1） 障害在宅訪問介護（1）  
 一般事務&家族介護（1） 販売アルバイト（1）  
 その他（2）

内 容：☆ 開催のきっかけ ☆『しゃべり場の約束』確認  
 ☆ 自己紹介

### 【話し合われた内容】

1. 仕事を辞めたいと思った経験、理由、解決方法や結果
  - ①利用者が職員に依存してしまい辞めるしか方法が見つからず、実際に退職した例。
  - ②利用者家族との「関係」において、苦情がエスカレートし、疲弊して退職を申し出た例。
  - ③家族の苦情への対応、苦情の背景となる事柄。家族の満足するサービスについて
2. その他フリートーク 同性介護について 利用者からのセクハラについてなど。

### ★感想・今後の希望★

当日まで、人が集まるか心配でしたが、1人、2人と参加者が教室に顔を見せてくれると懐かしい友にも会え、不安な気持ちから楽しみ！という思いに変化してきました。実際に話しをしていくと、対象が高齢者と障害者では、大切にしている対応の違いを知り、自分の現場しか知らないことにまだまだ勉強不足であることを実感しました。また私は家族支援で悩んでいましたが、経験豊富な皆さんから、どのようにしたらいいのか、またどのようなことに気を付けながら対応をしているのかを聞くことが出来、毎日が憂鬱だった気持ちが「もう少しこの仕事を頑張ってみるか！」という気持ちになりました。

「しゃべり場」は卒業生が集まって話ができる場所でもあります。福祉の仕事って大変なことも多いけど共感してくれる仲間がいたら明日からまた頑張ってみようと思えるのではないのでしょうか。「支援者一人ひとりが福祉の現場で輝けるように」しゃべり場に集まってきたらいいな。 発起人 河瀬 玲子

初めは緊張しましたが集まった方々の様々な意見を聴くことが出来て勉強になりました。家族の立場からの意見を聞くことや、職場で会議を開き、話し合う時間を設けることが大切だと感じました。

いろいろな経験をしてきた方々の話を聞いて、実際今の私の介護現場ではスタッフの人数が少なく、日々の業務に追われ、みんなで話し合う時間を持っていないことに気づきました。利用者の為にも職員同士もっとコミュニケーションをとって情報を共有し連携を深めていけるようにしたいと思いました。

1回目は、テーマなど決めず、自由に話しましたが勉強になることがたくさんありました。次回は悩んでいること等決めてから行ったら解決策もいろいろな意見をもらえていいのではないかなと思います。

発起人 野崎 希実

経験を話し合うだけでも、知恵の宝庫！次回も楽しみです。

### 次回 福祉のしゃべり場のご案内 詳細は別紙チラシ参照

2019年2月16日(土) 13:30~15:30

場所：東京YWCA会館 215号室

対象：福祉・介護関係の仕事をしている方 「福祉のしゃべり場」に関心がある方

内容：自己紹介 参加者の職場での困りごと・取り組んでいること  
 互いの葛藤や悩みへのヒント 自由に話し合いながら進めます

★ 費用：NPO会員 無料 会員以外 100円



## 講師派遣研修 講師の紹介

講師として活躍してくださっている先生方をご紹介します。

### 佐藤 幸江先生

#### Q1:講師になったきっかけは？(YWCAとの関係)

お世話になった先輩の紹介で昨年より講師としてのご縁をいただきました。また、石井事務長と直接お会いしてお話する中で、対人支援職の方たちのメンタルヘルスをサポートすることの重要性についてとても大切に考えてくださっていることに強く共感したこともお引き受けしようと思えた大きな理由の1つでした。

#### Q2. これまでのお仕事と専門分野

臨床心理士として、精神科病院で12年、その後は産業領域で10年ほど勤務しながら、ここ数年は大学院での教育・臨床活動にも携わっています。専門は力動的視点を生かした個人心理療法、よりよいコミュニケーションをめざす Social Skills Training(SST)を用いたグループワークです。対人支援職の方への講義や研修も行っています。

#### Q3. 講師派遣の仕事の意義をどのように感じられていますか？

対人支援に携わる人のメンタルヘルスは私自身にとっても大切なテーマの1つです。研修を行うことそのものの意義とともに、「講師派遣」という形で受講者の方たちの現場に出向き、直接お会いして研修を通してコミュニケーションすることで、研修内容を受講者の皆様の実生活に持ち帰っていただける手ごたえを感じられたときに、とてもやりがいを感じます。インターネットなどで手軽に情報を得ることができる時代になっても、やはり face to face でやりとりできる研修の豊かさをこれからもできる限り受講者の方たちへお伝えしてゆければと思っています。

### 伊藤 卓先生

#### Q1. 講師になったきっかけは？(YWCAとの関係)

現職の所属部署が「NPOの団体会員」でした。

所内職員研修を永きに亘りお手伝い頂いていました。YWCA ヒューマンサービスサポートセンターの講師研修の前には、毎回事務局・講師間にて綿密な「複数回の打ち合わせ」を行い、熱量の籠った土岐先生の講義を提供して頂いていました。

そして、気が付くと、いつの間にか自身がYの講師を拝命していました。

いつ、何がきっかけだったのでしょうか…。

#### Q2:これまでのお仕事と専門分野

20数年来、様々な障がい者支援の分野で働いて来ました。知的障がいのある方の通所施設を振り出しに、身体障がいのある方の入所施設、グループホーム、相談支援等を経て、現在は居宅介護部門を担当しています。多くの部署を経験させて頂き、多くの方と出会ってきました。

#### Q3:講師派遣の仕事の意義をどのように感じられていますか？

「障がいの理解」や「権利擁護」、「リスクマネジメント」等の講義を担っています。受講者の記憶に一つでもエピソードが残るよう演習を取り入れ、興味関心を引き立てる様に心掛けています。

講義の事前準備や打合せを通し、自身のブラッシュアップにも毎回大きく繋がっています。業務を通じ、自身の大きな財産となっているものは「縁」です。講義を通し、様々な新たな縁が所属を超えて広がって行く事に意義を感じ、駆動力となっています。



## 特集 東京都保育士等キャリアアップ研修

### 1. 東京YWCAヒューマン・ビズポータルセンターで実施している研修

- ①マネジメント
- ②障害児保育
- ③保護者支援・子育て支援
- ④食育・アレルギー対応

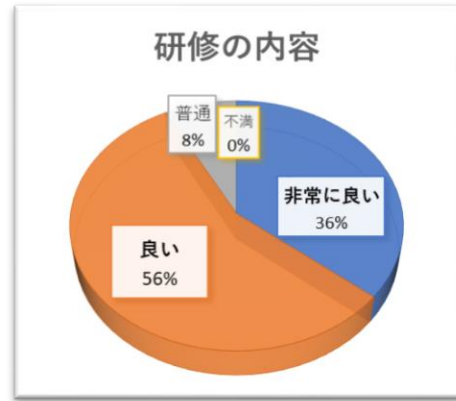
### 2. 保育士等キャリアアップ研修に関するアンケート

保育士等キャリアアップ研修を受講された皆さんに、研修についてアンケートにお答えいただきました。4分野の研修で複数の質問に答えていただきましたが、今回は8月に実施しました、マネジメント研修について抜粋して掲載いたします。

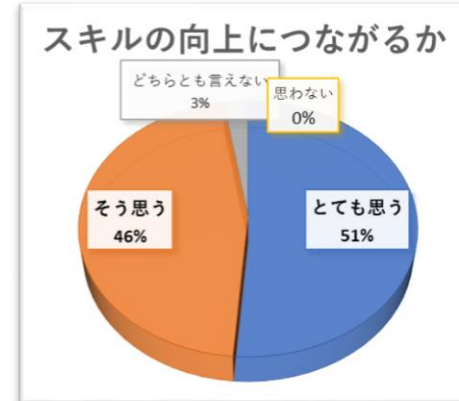


(回答 39名 回収率 100%)

#### (1) 研修に対する評価



#### (2) 研修の効果



### 講義を終えて・・・「マネジメント」担当、田島先生インタビュー

#### Q. キャリアアップ研修の講義を終えての印象について

保育士の教育体系や制度の中にはマネジメントの概念がありません。保育士も、介護や社会福祉士のように、保育ソーシャルワーカーという位置づけが必要でしょう。グループワークをして感じることは、より良い保育を目指し熱心に実践されていることは伝わりますが、地域の中で保育園がどんな役割を果たすかを考えている人が少ないようだということです。保育園を利用せずに地域の中で孤立している人や、様々な保育園の形がある中、劣悪な保育環境の中で育てられている子供も少なくありません。町の中にある子育て拠点として、地域の子育て支援をどうしていくかという視点も持って仕事をすることが必要になって欲しいですね。



自分が所属する経営主体(園)が、地域の中で何をもちて貢献するのか、社会的に意味のある行動とはなんなのか視野を広く持ち考えていってほしいと思います。



#### Q. キャリアアップ研修を受けた受講生への期待について

福祉制度の変更のニュース、世の中のつながりに敏感になってもらい、保育園の中の、良いパフォーマンス(園の子供に対する)だけでなく、自分たち(保育士)の社会的な責任についても考えられるようになれるといいですね。自分がなぜ保育士になったのかその本質を考えながら、今自分はどのような場所において、どのような道に進んでいるかというキャリアビジョンについても考えながら仕事ができるといいと思います。

最後に、困難なことも多いと思いますが、やめないで続けてほしいというのが一つ。担任制など個人で行う仕事が多い保育士ですが、チームで動いて欲しいというのが二つ目。三つ目は、自分の志とか原点を大切に、自分から沸き起こる内発的な気持ちから勉強を続けてほしいということです。

## 東京都保育士等キャリアアップ研修講師からのメッセージ

会報16号に続いて、講師からのメッセージをいただきました。「障害児保育」をご担当頂いている3人の先生方からいただいたメッセージをご覧ください。

	Q1 キャリアアップ研修への思い	Q2 受講生へのエール
浜谷直人先生	<p>1980年代から、いくつかの自治体で障害児保育の巡回相談員を務めてきました。支援が必要な子どもがいるクラスを、どう理解し、その保育実践をどう創造するかについて、保育者の方々に学びながら、理論的に整理することに取り組んできました。</p> <p>近年では、クラスに多数の支援児が在籍するという状況がひろく出現してきています。支援児を個としてみて、それを支えるだけでは、状況はよくなりません。クラスの子どもの多様性を認め、それが生きるような、柔軟で創造力ある保育実践が必要になってきています。全国には、これまで、素晴らしい実践が数多く生み出されてきています。そういう具体的な実践を題材にして、皆さんと対話をしながら、実り豊かな研修になるようにできればと思っています。</p>	<p>一人一人の子どもを理解し、その育ちを大切に育て保育する。これは、保育の基本かと思いますが、障害児保育とは、まさに、保育の基本を学び、実践することだと思います。子どもを理解するとはどういうことか、実践事例に即して学び合いたいと考えています。</p> <p>障害児保育を経験して、子どもを丁寧に理解することが分かり、その後の、保育者としてのキャリアの基礎をつくることができた、同僚、保護者、専門機関などとつながることの大切さを身をもって知ることができた、そう語る保育者にたくさん出会ってきました。</p> <p>大切なこと、保育者としての喜び、そういうことを再確認する場になればと思っています。</p> 
是村由佳先生	<p>行動分析学が専門です。発達障がい児へのABAセラピーは、行動分析学のエビデンス(根拠)に基づいています。保育士の皆さまが、根拠を持って様々なお子様の成長に携わってゆく一助となる講義をと考えています。</p>	<p>受講の皆さまの関心の高さ、向学心を素晴らしいと思います。気持ちは熱く、問題解決は冷静に。ぜひ、お子さんの健やかな成長のために本研修を積極的に活用してください。研修内の皆様の発言、大歓迎です。</p> 
芦澤清音先生	<p>保育現場の子どもの姿は多様性を増しています。子どもの困難を理解するだけでなく、持ち味が活かされ育ち合う保育が求められています。本研修が、多様な子どもへの理解を深め、新たな保育につながればと思います。</p>	<p>講義とグループワークの自由な対話が、子どもの見方や捉え方を広げ、子ども理解を豊かにしてくれるでしょう。</p> <p>保育者同士が育ち合う研修になればと思っています。明日の保育が楽しくなる、そんな学びの場にしましょう。</p>